三河の昆虫
No. 5　1973年12月

〒448 刈谷市井ケ谷町
愛知教育大学昆虫研究室内
三河昆虫研究会　発行
第一プリント社　印刷
☎ ⑩0564 ㉑4463

東三河産ミツノエンマコガネの研究

伴　憲　隆

ミツノエンマコガネ *Onthophagus tricornis* Wiedemannは体長14～18㎜，体は黒色で，頭部は密に横シワがあり，中央部に1隆起とその後方部に1対の板状の角がある。頭楯前縁の中央部は舌状に突出し，前胸背板はあらい顆粒物があって雄雌ともに前方中央部に小突起がある。

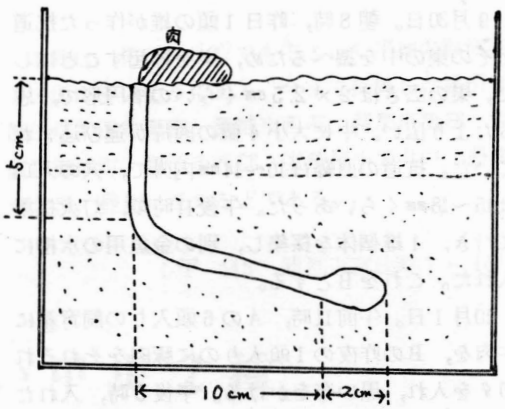
本種は分布上からも特異なもので，東南アジアから台湾をへて九州，四国，本州の一部に産するが，本州でも関西地方にはきわめて稀であるが，東三河地方では普通に産し，毎年かなりの数の個体が採集されている。私は本種に興味をもち，1972年9月から1973年にかけて飼育観察をしたので，その一端をここに報告し，今後の研究の足がかりにしたいと思う。

飼育方法

1972年9月27日から同年10月10日までの間に灯火に飛来した10雄2雌個体について飼育した。餌として鶏肉，魚肉，イカ，ハムなどを与えた。容器は，金魚用の水槽2個と素焼の植木鉢1個を用い，土は底から砂6分目とその上に土を4分目くらい入れ，金魚水槽には金網を，植木鉢にはガーゼ布をそれぞれかぶせ，自宅の玄関におき，1日に1～2回霧吹きで湿り気を与えて観察した。

観察記録

1972年9月27日。午後8時頃，蒲郡市街地の灯火に飛来した1雌3雄個体を採集し，金魚用の水槽に入れた。これをAとする。ミツノは，それぞれ容器内を5分間ほどうろうろしていたが，やがて薄暗い壁側の方で穴を堀り始め，1分もすると土中に姿をかくした。九州地方で，本種が魚肉で採集された例があることを聞いたので，家にあった鶏肉約10ｇを与えてみた。2時間後に調べたところ肉塊は10㎝ほど壁に寄った薄暗い方に移動しており，肉塊の横に別の穴を堀ったらしく，肉塊にかなりの土がかけられていた。他のミツノもそれぞれ肉塊の周囲に穴を堀り始めていた。翌朝みた所，肉塊は完全に土中に姿を消していた。



飼育箱の状態

9月28日。午後9時頃，昨日と同じ場所の灯火で2雄個体を採集し，Aの飼育箱に収容した。この個体は，箱内をぐるぐる回っていたが，やがて先に収容したミツノの穴の隣で穴を堀り始め，1分位で土中に姿を消した。

9月29日。午後3時に再び容器の明るい所に鶏肉約10gをおき，中を暗くするために黒い布を掛けた。今度は肉を移動させないで，肉の周囲で新しい穴を堀り始める。穴堀り作業をしているのは雄個体で，前脚で土をかき，後脚で土を押しやり，みるみる穴を堀って行く。1時間後には，すでに穴を造り終ったらしく，肉塊を穴に引き込もうとしているのか，肉の下にいた。午後10時，穴の巣の中に肉片が箱外からみる限り2個あった。肉を引き込むようすが観察できなかったのが残念である。

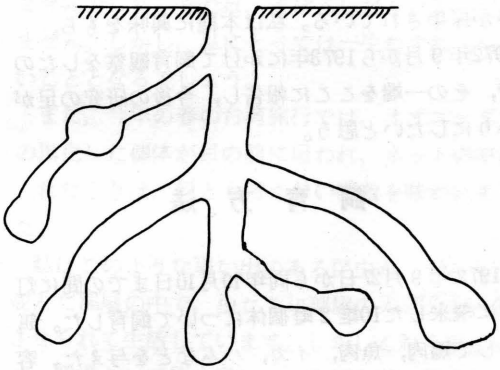
9月30日。朝8時，昨日1頭の雄が作った抗道とその巣の中を調べるため，巣を堀起すことにした。巣の広さは2×2.5cmくらいの楕円形で，思ったより広い。中に大小4個の肉片が運び込まれていた。抗道の直経は10〜14mm内外で，穴の入口は15〜18mmくらいあった。午後11時頃，灯火採集に行き，1雄個体を採集し，別の金魚用の水槽に入れた。これをBとする。

10月1日。午前11時，Aの6頭入りの飼育箱に牛肉を，Bの昨夜の1頭入りのに豚肉をそれぞれ10gを入れ，黒い布をかける。午後5時，入れた肉はA，Bとも全くそのままで，肉には反応を示していないようである。午後10時，Bの飼育箱内の肉の周りの土がかなり盛り上り，豚肉を半ば被った状態になっていて，ミツノは盛んに活動している。Aの方も次第にあわただしくなっている。1頭が表に出て動き廻っているが，肉を引いて行く様子はみられない。

10月2日。午前8時，Bの1頭入りの飼育箱内の豚肉約10gは全て土中に消え，1頭で10gもの肉を巣に引き込むのには驚いた。Aの飼育箱は昨日と全く同じ状態で，牛肉には何の反応も示していない。それは，9月29日にすでに鶏肉を与え，それを巣に引き込んでいるためと思われる。そこで，飼育箱の中を観察しながら土の入れかえをする。その結果，3つの穴からそのすべてと思われる肉片が現われ，穴の1つは垂直に約5cm堀り下げ，横に4cm進んだ所に肉片があって，ミツノはその先の約2cmの所でみつかった。夜灯火に行って雄2頭を採集する。これをBの飼育箱に収容した。

10月3日。Aの飼育箱に魚肉とミツノの好む鶏肉を，Bの飼育箱には牛肉と鶏肉をそれぞれ10gほど入れる。

10月4日。午後10時，蒲郡市内の三谷町においてミツノ1雄個体を採集し，帰宅して飼育箱をみたが，肉片は昨日のままで，何の変化もしていない。持ち帰った雄を魚肉と鶏肉の入ったAの容器に入れる。魚肉の上にのせると，すばやく逃げるが，鶏肉の上に乗せると，じっとして動かず，盛んに肉汁を吸っていた。しばらくすると肉片を動かし始め，最初に小さい肉片を壁側の薄暗い方に引いて行ったが，すぐもどって，今度は大きな肉片を引き始めるが，うまく行かず，頭部の角を肉片に当てて，ブルドーザのように押し，横にそれるとまた押しなおし，薄暗い好みの場所にすえた。



飼育箱内での巣孔の形の1例

Bの飼育箱をみると，やはり雄1頭が姿を現わし，牛肉にかじりついていた。しばらくすると，この個体は，大きな肉片の下に潜り込んで，背に肉片（約10g）をのせて暗い方に運び始めた。肉片を

すえると，それは肉片の下に穴を堀り始めたらしく，姿をみせなくなった。約5分後，そこに他の1頭が現われ，やはり肉片の下に潜って別の穴を堀り始めた。

10月6日。A，Bの飼育箱内のミツノは，土中潜ったきりで，夜以外はあまり地表に出てこない。

10月10日。A，Bのミツノは，土中に潜ったきりで，地表には出てこない。夜10時頃に1雌個体を蒲郡市街地で採集した。

灯火に集る成虫の消長

私1人の採集記録であるが，ミツノは東三河地方では5月下旬より10月中旬頃までの約5ケ月間，燈火で採集されている。この間，6月中旬から，7月中旬が最も多くて，8月中旬から9月下旬も比較的多い。また，7月下旬から8月上旬には個体数が少なくなり，10月中旬からは，地上での活動はほとんどみられなくなる。

以上のことから，ミツノは大体5月から7月までと，8月から10月までの2つの山にわかれるように思われる。また，5月下旬頃から出現する個体は，すべて新鮮なものであるので，幼虫期は4月から5月頃にあるものと考えられる。

食性について

九州地方では，本種がしばしば腐肉で採集されているので，私も採集したミツノに鶏肉，牛肉，魚肉，イカ，その他加工食品のハム，ソーセージなどを与えてその反応を観察した。その結果，鶏肉，魚肉，イカ等には比較的よく反応したが，ハムやソーセージなどは，空腹時以外に，あまり反応を示さなかった。食糞性については，一度犬の糞を与えてみたが，これには反応を示した。しかし，巣穴に引き込むことはまだ観察していない。腐敗植物質については，まだ実験していない。

採集地について

本種は，東三河地方でも主として平地の海岸寄りの所に多いようである。今まで採集した場所は，額田郡幸田町東部，蒲郡市西部，蒲郡市街部，宝飯郡御津町，豊橋市西部，宝飯郡小坂井町，豊橋市北部，豊川市街地などである。

三河の珍しい甲虫2種

大平仁夫

・ヤマトセスジムシ

1973年6月1日に，鳳来寺山自然科学博物館の宿直室で会議を開いていたら，何か黒いものが畳の上を歩いていたので採集すると，セスジムシであった。早速袋に入れて持ち帰って標本にしたが，図鑑をみてもよくわからないのでそのままにしておいた。最近になって中根（1973，昆虫と自然，9：2～5）にこの科の解説が出たので調べてみたら，ヤマトセスジムシであることがわかった。中根先生の記事によると西日本に産し，中部では富士見台でみつかっているそうである。三河地方では最初の記録と思われるが，どうして博物館の畳のうえにいたのか今だに不思議である。

・オニクワガタ

1973年8月に，段戸山で田中蕃さんから，段戸山でオニクワガタが採集されるという話しを聞いので，私もどうかして自分で手に入れたいものだと思っていたが，8月12日に再び段戸山に行く機

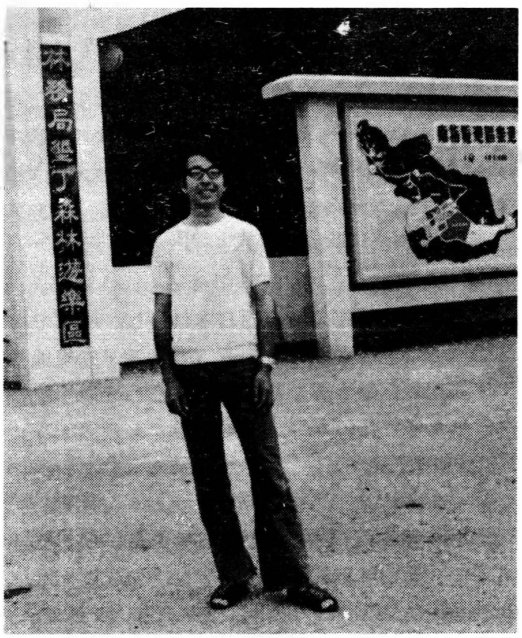
会があったので，段戸湖の水銀燈を探していたら，地面をはっている1雌がみつかった。丁度その前後に，豊橋市の松野更一さんも段戸山で雄を採集されたそうである。この種も，三河地方ではこれが最初の記録ではないかと思われるので，ここに記録しておく。

私と昆虫
―その4―

杉坂美典

私は，昆虫に興味を持ち，ネットを持って追いかけたのは，小学校の2年生のころからです。今までに，いろいろなことがありましたが，そのなかでも，思い出として強く残っていることがいくつかあります。

虫を採り始めたころは，採ることに夢中でまわりのことに気を付けずに，足がすべって岡崎公園の堀の中へ落ちて，通行人に助けてもらったこともありました。初めて，オオムラサキを採った時は，手がふるえて，三角紙になかなか入れられませんでした。初回の沖縄の採集旅行は，船よいで死ぬ思いをしました。台湾の南部で，キシタアゲハを採った時の感激はわすれません。いろいろの思い出の中で，最も印象的に深く残っていること，それは，今夏の奄美大島でのことです。夏の奄美には，多数の蝶が発生していました。とくに，ナガサキアゲハは非常に多数の個体が発生していました。私は神社の境内で休んでいたところ，近くのハイビスカスの花に，1頭の♀が飛んできました。しかし，次の瞬間それは♂に変わったのです。つまり，雌雄型の個体でした。きれいに半分づつ，♂と♀になっています。私は，必死になってネットを振りましたが，ネットのふちに触れただけで逃げられてしまいました。残念で，くやしくて，それから，その日1日は何も採集することができませんでした。それは，まぼろしだったかもしれません。しかし，私にとっては一生わすれられないこととなるでしょう。



また，今年の春の台湾旅行では，オオゴマダラの黒化した個体が目の前に現われ，ネットの中に入れたときは，何とも言えない感激を味わいました。

私はこのような思い出のある昆虫が，ずらりと並んだ部屋の中で，虫たちに部屋の大部分を占領させられて生活しています。しかしこれらの昆虫は，標本として標本箱に，三角紙や紙に包まれたまま入れられているものが大部分です。早く，すべての昆虫を展翅したり，展足してやりたいものです。それには何十年もかかってしまうでしょうが，毎日，少しづつ，完全な標本として，標本箱に入れていくつもりです。